＼発見！／

おごおり遺産

No. 029

風旗

神社にお参りした際、空を見上げると旗がたなびいています。この旗には、どのような目的や意味があるのでしょうか。

▲諏訪神社（古飯）の風旗

5月を迎え、新緑の季節です。もうじき田植えも始まり、一面に緑が広がる美しい季節を迎えます。

田植えが終わった後、その疲れを癒やす期間をサナボリと言います。この期間は体を休め、会食などをして休養しますが、それと同時に秋の豊作を神様に祈る期間でもあります。

小郡市内では、サナボリ神事の一つとして、風旗（かぜはた）を上げるところが多くあります。風旗とは、神社境内の大木などに長い竹を立て、その先に祈祷（きとう）文を書いた白布（長さ1～2m）を掲げて神に祈願するものです。

祈祷文には、「天之御柱神」「地之御柱神」「○○神社天神地祇（ちぎ）八百萬神（やおよろずのかみ）五穀豊穣風止（かぜやめ）祈祷」とあり、神様にその年の豊作と風止めを祈る内容であることが分かります。また、「五穀豊穣」「昆虫消除」「天神地祇八百萬神安鎮座村中安全祈祷」と書かれ、豊作とともに、虫除けや地域の安全を祈るものもあります。

この風旗は、現在でも市内の多くの神社で見られます。福童の大中臣神社では、7月上旬に五穀豊穣を祈る神事（御願立（ごがんた））が行われ、神事の後に楼門南側にある大きな槙の木に風旗を掲げます。

上西鰺坂の老松神社では、神殿南西の高木に掲げられます。数年前に偶然付け替えのようすを見ることができましたが、慣れた手つきで高木に登って作業する姿が印象的でした。

▲老松神社（上西鰺坂）の風旗

この他にも、大板井の玉垂御子（たまたれみこ）神社、寺福童の福童神社、八坂の若宮八幡神社、古飯の諏訪神社、大崎の媛社（七夕）神社、光行の天満神社を始め、多くの神社で見ることができます。

旗を使用したまつりで有名なものに、綾部八幡神社（佐賀県みやき町）の旗上（はたあげ）神事があります。これは、毎年7月15日に行われ、幅1尺、長さ1尺2寸の神旗を長い竹の先につけ、樹齢700年の銀杏の樹に取り付けるものです。9月24日の旗下ろしの日まで、旗のなびき具合を観察・記録し、巻き方から天候や農作物の豊凶を占います。

神社参拝の際に見上げるとたなびく風旗には、地域の人の願いが込められているのです。

問 文化財課 ☎75・7555